

# 石巻 2025 会議

～地域の未来を考える～

2017 → 2025

コンソーシアムハグクミ





# 01 オープニング

石巻の現状と予測される未来、  
これから石巻2025会議が展開する4つのテーマについて共有

実施日:2017年9月24日(日) 場所:IRORI石巻 参加者:35名 タイムテーブル:石巻2025会議の説明-基調講演(阪井聡至審議監)-テーマリーダートーク-交流会



## 登壇者



阪井 聡至  
石巻市  
復興担当審議監



松村 豪太  
一般社団法人  
ISHINOMAKI2.0



三上 和仁  
合同会社  
デザインナギ



高橋 由佳  
認定NPO法人  
Switch



矢口 龍太  
一般社団法人  
ISHINOMAKI2.0

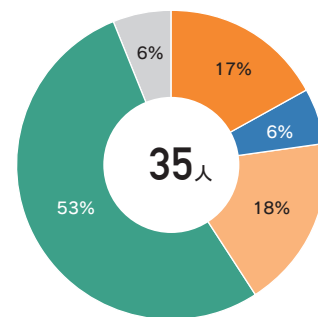


雁部 隆寿  
一般社団法人  
ISHINOMAKI2.0



苅谷 智大  
株式会社  
街づくりまんぼう

## 参加者の傾向



- 生まれも育ちも石巻
- 石巻出身Uターン
- 宮城県内出身
- 宮城県外出身
- その他

## 石巻2025会議とは

石巻2025会議は「2025年」を軸に石巻の未来を考える場です。団塊の世代が75歳を超え、医療制度が崩壊する懸念が高まると推測される「2025年問題」。石巻も例外ではなく働き手は減り、老人がますます増える時代がすぐそこまでやっています。更に国が定めた復興期間は2011年から2021年までの10年間でされており、期間終了後は

様々な優遇措置は狭められる傾向になると推測されます。その上で復興から自立し、持続的な地域の運営を実現できるかどうかは復興期間である現在も含め、この数年が鍵になるはず。 「復興から成長へ」持続的な地域を実現するべく、各分野のキーパーソンが結集し議論を通して地域の未来を想像し共有します。



## 基調講演

阪井聡至審議監より「2025年、待ってる未来」と題した基調講演が行われました。具体的な数字を上げて未来の石巻を分析した結論は「やはり厳しい」になるものの、一方で2025年にはあらゆる技術革新が起こりワクワクする未来も来ると説明します。そうしたワクワク感も含めた「面白い地域」にするためには若い世代が外に飛び出しチャレンジ

し、そしていつか戻れるように「選ばれる石巻」になる必要があると続け、そのためにはアイデアと人材、そして地元の資源を結びつけたイノベーションを起こす「面白く稼げる団体」を増やし、そこに「行政」を巻き込んで動かし投資していくことが重要だと指摘されました。



## テーマリーダートーク

石巻2025会議は「ローカルベンチャー」「地域包括ケア」「移住」「観光」の4つのテーマで展開されていきます。ローカルベンチャーのテーマリーダーは松村豪太氏、地域包括ケアは高橋由佳氏、移住は矢口龍太氏・雁部隆寿氏、観光は須永浩一氏が担当します。リーダートークではそれぞれの担当リーダーがテーマの現状と会議で話す内容を会

場の参加者も巻き込んで議論しながら共有を行いました。



## 参加者の声

- フラットな場という印象。
- 近視眼でない観点から「自分たちのあり方」を考えるきっかけになっている。
- 未来のことについて話すこと、考える事、実践していくためのこと、初めていくことはとても大切だと思う。
- 話しをしている方が、組織の建前ではなく、私見であっても本音で話をしていた。
- 分野横断的(分野内での横断性はもちろん)なディスカッションの場はこれまでなかなかやなかった。
- 所属を問わず様々な分野に携わる人たちが集まった。





# 02 ローカルベンチャー

石巻においてローカルベンチャーに取り組む関係者が  
セクターを越えて熱く議論を展開

実施日:2017年10月21日(土) 場所:IRORI石巻 参加者:37名 タイムテーブル:自己紹介-現状共有-事例紹介-オープンディスカッション-交流会



### 登壇者



松村 豪太  
一般社団法人  
ISHINOMAKI2.0



渡邊 享子  
合同会社巻組



松本 裕也  
FisherMAN JAPAN



林 貴俊  
Tree Tree  
Ishinomaki



千葉 隆博  
株式会社石巻工房



山口 智大  
NPO法人石巻復興  
支援ネットワーク



谷川 海明  
法音寺/  
石巻青年会議所

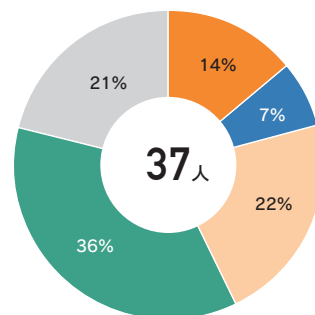


阿部 明夫  
石巻産業創造  
株式会社



向井 太郎  
石巻信用金庫

### 参加者の傾向



- 生まれも育ちも石巻
- 石巻出身Uターン
- 宮城県内出身
- 宮城県外出身
- その他

### 現状共有

石巻におけるローカルベンチャー(以下LV)の現状共有として松村豪太氏が発表を行いました。LVをローカル「地方」+ベンチャー「創造的・革新的ビジネス」=「地域資源を活かした新しいビジネス」と定義し、大規模金融資本経済とは一線を画する考え方であると説明。石巻の例として、イトナブやイシノマキファームといった新規創業事例、二次創

業の例として今野梱包、福祉分野でも愛さんさん宅食やりぶらすといった組織が該当することを説明した上で、今後こうした主体がいかにスケールアップしていくか、どう成長し活躍していける街になるのか、本日の会議で意見交換をしていきたいと続けました。



### 事例紹介

石巻LVの代表事例として石巻工場の千葉隆博氏が発表を行いました。以前は地元石巻の寿司屋で働いていたが、震災により「直したくても直せない」現状を目の当たりにした。そこで「復興ではなく復旧」という観点で自分たちがDIYスキルを取得すれば復旧は早くなるのではと考え「市民工房」を東京の仲間と共に起こします。その延長線で簡単に作

れるベンチを石巻工業高校の生徒と共に作り、ハーマンミラー社と協働しながら作り方を学んだ家具が評判を呼び、販売を開始。価格感の問題もあり売り先は石巻以外が主で、現在は日本のみならず海外での販売やワークショップを行っている事を会場に向けて説明しました。



### オープンディスカッション

会場を巻き込んだオープンディスカッションでは登壇者を中心に議論を進めました。1つ目の話題は「石巻の価格感」。地元を対象とした商材によっては限界があるという指摘に対し、「石巻で売れなければ世界に売り、売れるのであれば後から石巻で売るという視点が重要」「価格設定というのはコミュニティデザインでもあるからコミュニ

ティ形成を考慮しても必要以上に下げることではない」といった意見が出されました。2つ目は「連携」。当日は創業支援団体、金融機関、青年会議所など幅広い組織が集まった事もあり、それぞれの活動や強みを共有し、これまで行われてこなかった「連携の仕組みづくり」を議論しました。



### 参加者の声

- 色んなプレイヤーと意見交換できる貴重な場だと感じた。
- 地元で活躍する異文化の方々の意見、本音、リアルな話が聞けて面白かった。
- 地域で活動しているみなさんとの交流や共に動ける人、考えのセッションが良かった。
- ゆるい雰囲気ゲストスピーカーの皆さんが話しやすいところが良いと思った。また若い世代からやる気(熱量)を感じることができ、そこも良かった。
- 時間切れの印象が強が残った。ローカルベンチャーというキーワードでこれだけの人が集まることがこの会の価値。初対面の方も多かった。
- 守旧派を巻き込みつつ、前向きな議論ができれば尚良い。





# 03 地域包括ケア

石巻市が目指す地域包括ケアのモデルづくりを熱く議論

実施日:2017年11月25日(土) 場所:IRORI石巻 参加者:45名 タイムテーブル:自己紹介・現状共有・オープンディスカッション・交流会



## 登壇者



高橋 由佳  
認定NPO法人  
Switch



長 純一  
石巻市  
包括ケアセンター



荒木 裕美  
NPO法人  
ヘビースマイル石巻



横山 翼  
斎藤病院



野津 裕二郎  
一般社団法人  
ゆいいきる

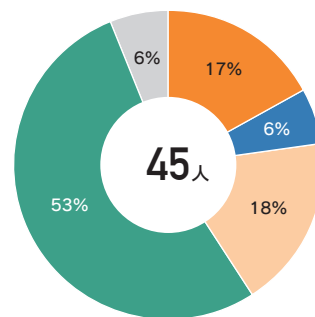


小尾 勝吉  
愛さんさん宅食  
株式会社



橋本 大吾  
一般社団法人  
りぶらす

## 参加者の傾向



- 生まれも育ちも石巻
- 石巻出身Uターン
- 宮城県内出身
- 宮城県外出身
- その他

## 現状共有

石巻市が目指す地域包括ケアの現状共有として長純一氏が発表を行いました。震災後の石巻では被災されて虚弱になった方が増え要支援2、要介護1が増加し、介護保険利用者が1.5倍に増加している。金額でいえば10億円程度増加しており、課題となっている。本来病院は治療をする場所であり療養する場所ではないが、日本では病院で療養も行われている事もあり、医療の負担が大

## オープンディスカッション

会場全体を巻き込んだオープンディスカッションでは現状共有を元に話題は多方面に及びました。まず石巻市が進める「ゆりかごから墓場まで」寄り添っていく「次世代型」の地域包括ケアの実現に関して、現場の声を申し合いました。子育て支援方面からは「子育て支援の相談を受けていく中で介護・夫の離職・鬱など担当分野以外の課題も見つかるが、現状では支援できるつながりがない」という意見が出され、高齢者支援からは「高齢の方がどこに相談したらよいかかわからないケースや相談の場所が遠く繋がらないケースがある。さらに、女性が子育てと介護を両方抱えているダブルケア、その上のトリプルケア問題があり、中々家族にまでサポートが及ばないのが現状」という意見が出されました。

きい。だからここを変えていく必要がある。福祉・保健の役割が重要だが、専門職だけの問題ではなく、地域住民の助け合い社会をどう実現していくかという点が重要で、そのためには街の再開発や復興公営住宅もリンクしていく必要がある。そうした生活支援と医療機関の連携が石巻の強みにつながるため、両方を育てていく事が不可欠だと説明しました。

牡鹿半島の話題では「牡鹿や雄勝では小規模多機能型サービスが震災後どんどん減っているため、高齢者が仙台に流出しており、死ぬ寸前に行きたくない場所にいかねばならない現状がある」といった意見が出され、ヨーロッパとの比較から「急速な高齢化の日本と比べ、ヨーロッパではゆるやかに高齢化していったため医療と福祉の転換ができています。日本でも、暮らし方、生き方という観点が大きくなっていく中で福祉へ転換しなければならない」といった指摘もありました。他にも「地域の結びつき」「地域に対する関わり」「社会参加」といったキーワードが出され、専門家教育だけでなく地域による生活支援に関する意見も多数出ました。



## 参加者の声

- 今日「新たなコミュニティ」が形成された、と感じた。
- 分野と世代を横断した、組み合わせが良かった。
- 子育て支援の話題が入って、始～終までを見渡せることが良かった。
- テーマが難しい(解決策が明確なようであり一足飛びに制度を変えられるわけでもない)点は悩ましい。
- しっかりした議論のまとめが出来れば、市政への提言にもつながりうるのではないか。
- 会いたい人にあえた。実践している方々にお会いするとモチベーションがあがる。



# 04 移住

石巻の移住戦略について熱く議論を展開

実施日:2018年01月20日(土) 場所:IRORI石巻 参加者:35名 タイムテーブル:自己紹介・現状共有・オープンディスカッション・交流会



## 登壇者



矢口 龍太  
一般社団法人  
ISHINOMAKI2.0



雁部 隆寿  
一般社団法人  
ISHINOMAKI2.0



犬塚 恵介  
一般社団法人  
おしかリンク



佐々木 亮介  
食堂パレス



石森 洋史  
石巻日日新聞



比佐野 皓司  
信和物産株式会社



小野 力  
石巻市民

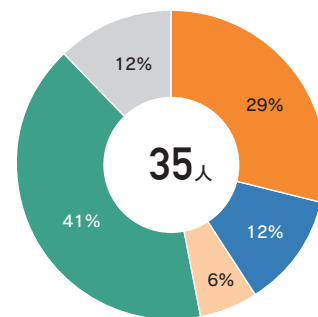


原田 優香  
公益財団法人  
共生地域創造財団



森 優真  
石巻産業創造  
株式会社

## 参加者の傾向



- 生まれも育ちも石巻
- 石巻出身Uターン
- 宮城県内出身
- 宮城県外出身
- その他

## 現状共有

石巻における移住の現状について移住コンシェルジュの矢口龍太氏と雁部隆寿氏が発表を行いました。先に「平成28年度に石巻市の事業として移住コンシェルジュがスタートし、これまで相談91名/移住14名の方と関わってきた。中でも関係人口から移住する方が多く、Uターンも4名いる」と説明。そして、現在行っている施策として「地域発信イベントなどで石巻の魅力をPRし、お試し

ツアー『ウミネコキャラバン』も実施している。ツアーでは過去2回で合計14名の参加があり、その中から今でも石巻に関わり続ける方もいる。他にも空き家、空き店舗探しとマッチング、起業家の伴走支援も行って」と続けました。最後に「移住はあくまで『目的』ではなく『結果』として多様な人々の窓口となり、魅力的で選ばれる街にしたいと考えている」と話しました。

## オープンディスカッション

登壇者だけではなく観覧者からも積極的に意見が飛び出したオープンディスカッション、前半は「Uターン」に関する話題を中心に展開しました。コンシェルジュの2人を中心に「UターンよりもUターンが増えている」「40歳を前に戻る人が増えている」「検討材料として仕事と給与水準が重要」といった指摘が出ました。

「見える化」することが重要」「チャレンジャーやクリエイターが集まれる場所を提供する」「関係人口を増やす中で多様性を認める地域への転換も大事」「層が沢山ありすぎてもはやけるため、ターゲティングが重要」「面白い人を日常的に紹介できる情報源」「面白い事をしたいが踏み出せない『モヤモヤ層』へのアプローチ」といった意見やアイデアが生まれました。こうした意見に対し最後に移住コンシェルジュから「地域の事例とマッチングして巻き込みながら進めていきたい」と今後の展望を話し締めくくりました。

後半は「Uターン」の話題が中心になりました。前提として「意欲的なUターンをする人は現実的な部分よりも『面白さ』を重要視する傾向にある」との意見が出され、会場から同意の声が多く出ました。その上で「石巻には面白い人がいて、歓迎する土壌がある事をもっと知ってもらう必要がある」といった指摘から、具体的な方法論に関して意見が集まります。「個人のやりたい仕事ができるフィー

## 参加者の声

- 移住を考えていたのでとても面白い話が聞けた。
- 2月に石巻中学校の同級会が20年ぶりに開催される。石巻に戻りませんか?と誘ってみたいと思う。
- 誰もが発言できる場だったので発言しやすかった。一人ひとりの意見に対して否定がなく、多様性がある場として機能していた。結論がでなかったことが非常に良かった。無理に答えを出す事より、「移住とは」と結論づけると、前に進むことが難しくなると思う。今後もこういう会を開いて欲しい。
- 色んな職種の人たちが集まり、UターンUターンなど、それぞれの立場の視点から見た、意見や考えを聞けたので参考になった。また、移住を支援する側からの話、課題点も聞くことができたので、支援する側はどう思っているのか知ることができ良かった。





# 05 観光

石巻の観光産業を盛り上げるため関係者が熱く議論

実施日：2018年02月17日(土) 場所：IRORI石巻 参加者：38名 タイムテーブル：自己紹介・現状共有・事例紹介・オープンディスカッション・交流会



## 登壇者



須永 浩一  
ヤフー株式会社



阿部 勝浩  
一般社団法人  
石巻観光協会



高橋 智之  
株式会社  
街づくりまんぼう



藤間 千尋  
公益社団法人  
みらいサポート石巻



杉浦 達也  
一般社団法人  
サードステージ



松村 豪太  
一般社団法人  
Reborn-Art Festival



山内 千代文  
一般社団法人  
石巻圏観光推進機構

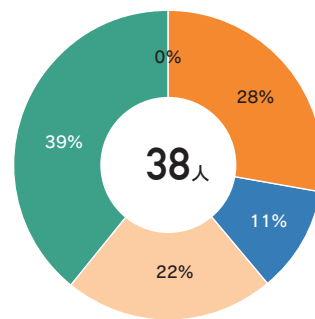


亀山 貴一  
一般社団法人  
はまのね



近江 弘一  
Cobaltore女川/  
石巻日新聞

## 参加者の傾向



- 生まれも育ちも石巻
- 石巻出身Uターン
- 宮城県内出身
- 宮城県外出身
- その他

## 現状共有

石巻の観光に関し現状共有として須永浩一氏が発表を行いました。具体的な数値を提示しながら「石巻の観光入込客は年間200万人(のべ)」「割合は県内客が8割」「県内客は日帰り傾向で宿泊は少ない」「消費額は宿泊客の方が多い」「リピーターは体験アクティビティや美味しいものに対して関心がある」「集客施設の1位は上品の郷で年間40

万人」「全国的な流れとして自家用車の利用は減り、飛行機や電車が増えている」といった事実確認を会場に向けて説明しました。



## 事例紹介

事例紹介では亀山貴一氏と近江弘一氏から発表がありました。亀山氏は「蛤浜プロジェクト」の事例を紹介。「震災後住める場所も少ないが浜を残したいという想いで、ボランティアの助けを借りて始まった」「様々な体験型アクティビティを増やした事もあり交流人口は増えたが、一方で増えすぎた弊害も生まれた」「現在は浜の魅力と人のつなが

りを大事にし『ハートランド(心の拠り所)』をコンセプトに関係人口の増加を目指している」と説明。次に近江氏は「コバルト・レー女川」の事例を紹介。「サッカーチームだが見方を変えれば選手は中長期的な『夢』の観光だと言える」「実際に選手が地元に住み地元の人とともに働く事で関係性が生まれ定住にもつながる」とつなげました。



## オープンディスカッション

参加者も巻き込んだディスカッションでは、石巻の観光をどう盛り上げていくか議論しました。その中で「地域の良さを伝えるためには地域の人たちがターゲットとロードマップを共有する事が重要」「従来の『観光』の枠外を捉える」「客単価は高くても丁寧にやることでリピーターは増える」「土日以外のコンテンツの発信」「宿泊スタイルの充実(ライ

ダースハウスなど)」「まち(地権者)の意識変革の仕組み」「もっと人に来て欲しいという気持ちの共有」「『動く』プレイヤーの増加」といった意見が出ました。



## 参加者の声

- 地域を観光で盛り上げるヒントが沢山学べた。
- 人が集まる要素としてその街が「意志」と「性格」を持つことが必要だと思う。
- 様々なセクターの関係者が集まって石巻の将来を語る事が非常に大事だと思った。課題と目標を洗い出して、一緒に取り組んでいきたい。
- 当たり障りのない内容の枠から出きれない感があったが登壇者が終始、建設的な方向で話をされていたので良かったと思う。
- (1)議論の時間を十分に取っている (2)取り組み紹介とデータとバランスがよい (3)違うバックボーン、内外の人たちをうまく混ぜている (4)ラウンドテーブルがよい





# 06 クロージング

## 石巻2025会議の全テーマ振り返りと成果発表

実施日:2018年03月17日(土) 場所:IRORI石巻 参加者:28名 タイムテーブル:4つのテーマ振り返り-オープンディスカッション(反省会)-交流会



### 登壇者



三上 和仁  
合同会社  
デザインナギ



松村 豪太  
一般社団法人  
ISHINOMAKI2.0



高橋 由佳  
認定NPO法人  
Switch



矢口 龍太  
一般社団法人  
ISHINOMAKI2.0

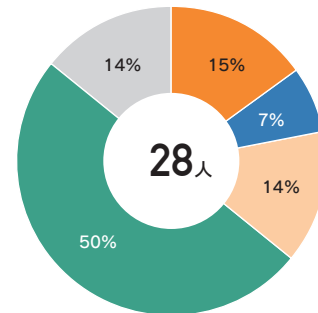


雁部 隆寿  
一般社団法人  
ISHINOMAKI2.0



亀山 貴一  
一般社団法人  
はまのね

### 参加者の傾向



- 生まれも育ちも石巻
- 石巻出身Uターン
- 宮城県内出身
- 宮城県外出身
- その他

当日はテーマ毎に振り返りとその後の成果発表を行いました。各テーマの内容はすでに掲載しているため、ここでは成果発表のみを抜粋して記載します。

### 「ローカルベンチャー」

- 1)ローカルベンチャーリサーチの実施:石巻のローカルベンチャーを統計的にまとめるためリサーチを実施しました。
- 2)ローカルベンチャー白書の作成:リサーチした情報を元に白書を作成します。
- 3)新アイデア「武者修行2018(仮)」の実施:石巻でチャレンジしたい人のための仕組みづくりを検討しています。



### 「地域包括ケア」

- 1)石巻市高齢者福祉計画(バブコメ)第7章に地域包括ケアの進化・推進が組み込まれました。
- 2)「障害がある人もない人も共に安心して暮らせる福祉のまちづくり条例」が制定されました。
- 3)石巻圏域における子ども・若者のワンストップサポートの仕組みを構築中(支援団体による協議会等)2018年6月を予定しています。



### 「移住」

- 1)牡鹿地区と連携するため、移住コンシェルジュが窓口となるように動き始めています。
- 2)石巻産業創造株式会社の森さんと繋がった事で、情報提供などで連携が取れるようになりました。
- 3)不動産業と連携し、移住向けサービスの可能性を検討しています。
- 4)チャレンジしたいという若者にもう一歩踏み込み、家探だけでなくキーパーソンやコミュニティと繋げています。事例を発信する際に協力してもらおう動きも作っています。



### 「観光」その後の成果

- 1)はまのねとおしかりんくの事業連携を行いました。鹿に食べられない「楓」を利用したメープルシロップ作りを、参加者とともに植樹や森林保護も含めた「創造型ツーリズム」と定義して実施しました。また鹿の解体ワークショップを行ったところ、県内外から男女問わず参加者が殺到しました。楽しくコンテンツを消化しながら結果的に課題解決につながるようなプログラムを今後も実施していきます。



### オープンディスカッション

会場全体を巻き込んだオープンディスカッションでは「石巻2025会議の反省」をテーマに議論を展開しました。評価点は「みんなで集まり話す機会自体が減っていたので貴重な場だった」「どうやったら良い街になるのかを議論できた」「すぐアクションにつながる」「言いたい放題本音で言えた」といった意見が集まりました。逆に改善点として「もともと地元で活動してこられた方

にも参加して欲しかった」「公務員の方にももっと参加して欲しい」といった声も聞かれ、また「街中だけではなく牡鹿や北上などでも開催してみてもどうか」「1日に絞って巨大なイベントとして実施するのもよいのでは」といったアイデアも出ました。最後に「何より継続が大事」という点で全体が一致終了しました。



### 参加者の声

- 固すぎず緩すぎない雰囲気も良い。
- 発言者各々が本音で意見が言えた(ように感じた)。
- その後の報告があり、やりっ放しではない感じが良かった。
- 次年度以降もその時々にあったやり方で継続して欲しい。
- 登壇者以外にも積極的に話をふりつつ、反省の中身を深めていた点は良かったと思う。
- 自分が行き詰まっていたコト悩みが同じように課題として取り上げられていて「一人じゃない」と思えた。
- 実施後の効果を調査・分析し、課題についてまとめられていることが素晴らしいと思う。







## あとがき

春の訪れを感じさせる3月17日、今年度6回にわたって開催してきた石巻2025会議の最終回が無事終わりました。最終回の後半は石巻2025会議自体の「反省会」という内容でしたが、全回を通じてコーディネートし、この日も司会をつとめて下さったデザインナギの三上氏は、「未来は見えただのか」と、一連の取り組みの意義そのものを見つめなおす自問的な問いかけから進行を始めました。結果として、「よかった」「ぜひ続けてほしい」という声が多数上がったのですが、こういったシンポジウムのイベントは被災地ではこれまで多数行われてきて、その際往々にして、どういう意味があったのか、成果があった場合その成果を自覚的にフォローしないという問題意識からのことだと思えます。

さて、2011年以来、被災地である石巻は単なる復興にとどまらず、全国から集まった皆さんの協力も得ながら、これまでどこにもなかったようなアイデアを震災を契機に見つけようとしてきました。確かに、東京でも考えられないような密度で「面白い」方々が集まり、もともとの石巻

の方にも震災以前にはありえなかったような魅力的なアイデアを実現された方が多数いらっしゃいます。しかし一方で、15万人の人口がいる街においてそうした動きはまだまだ「一部」のものであり、それはとてももったいないことだと考えます。

この石巻2025会議は、より多様な、より多くの方々と、こうした未来づくりの取り組みの楽しさを共有できないかという思いで発案いたしました。その成果は十分だったかと三上氏のように自分に問いかけると、まだまだいい点数はつけられないかもしれませんが、しかし、この報告書を振り返ると、石巻を魅力的なまちにしようというたくさんの声が集まっており、毎回「一歩」を踏み出せていたことを確認できます。

石巻がさらに面白いまちになるためには、多様な視点からのご意見を得て、思いやアイデアの交流を重ねることが大切です。一歩がまた次の一歩につながることを願って、参加していただいた多くの皆様への感謝とともに本報告書をしめさせていただきます。

コンソーシアムハグクミ 代表 松村 豪太

石巻2025会議平成29年度報告書  
2018年3月31日 第1刷

編集  
三上 和仁(合同会社デザインナギ)

デザイン・撮影  
渡邊 樹恵子(合同会社デザインナギ)

スペシャルサンクス  
佐藤 優花 (合同会社巻組/議事録)  
勝 邦義 (一般社団法人ISHINOMAKI2.0/議事録)  
橋本 さと子(グラフィックレコーダー)  
丸川 正吾 (グラフィックレコーダー)

発行  
コンソーシアムハグクミ  
平成29年石巻市スマートな地域資源活用創造事業

連絡先(ISHINOMAKI2.0)  
〒986-0822 宮城県石巻市中央二丁目10-2  
TEL:0225-90-4982 FAX:0225-90-4983  
<http://ishinomaki-iju.com/>  
[navi@ishinomaki2.com](mailto:navi@ishinomaki2.com)

コンソーシアムハグクミ  
一般社団法人ISHINOMAKI2.0、一般社団法人イトナブ石巻、合同会社巻組、一般社団法人石巻観光協会の4社によるコンソーシアム。  
移住・定住の促進、ローカルベンチャーの推進、空き家活用、地域の情報発信など、多岐に渡る事業を展開している。  
国内10自治体が参加する「ローカルベンチャー推進協議会」の石巻事務局を務める。

◆取り扱いについて  
本書の内容の一部あるいは全部を無断転載・複製・複写・インターネット上への掲載は、著作権法上認められている場合を除き、禁じられています。  
本書のデータを引用する場合は、必ず出典を明記いただき、ハグクミまでお知らせください。